

は し が き

本報告書は、平成 17 年 9 月まで外務省 NGO・アフガニスタン支援調整及び人間の安全保障担当大使を勤められた駒野欽一氏が、自らの外交官人生を振り返り書き下ろしたものです。

駒野氏は 1970 年外務省入省後、ペルシャ語の専門家として、とりわけ中東地域に対する日本外交の最前線で活躍されました。語学研修留学やその後のテヘラン大使館勤務などを通じて、特にイランに関する幅広い知見を培われてきました。本報告書では、このようなご経歴を背景に、1979 年のイラン革命や在テヘラン米国大使館人質事件、その翌年勃発したイラン・イラク戦争などについて、現地情勢に深く根ざした鋭い分析を披露されております。また 2002 年より大使として赴任されたアフガニスタンにおいて、元兵士の武装解除・動員解除・社会復帰 (DDR) を中心とする日本のアフガン復興支援推進に尽力された様子を、生き生きとしたエピソードを交えながら語っておられます。さらに、ペルシャ語習得の苦労話や外交官としての日常業務などを率直かつ忌憚の無い筆致で描かれています。

なお、ここに表明されている見解は全て執筆者のものであり、当研究所の意見を代表するものではありませんが、日本の中東外交の現場を垣間見るとともに、外交官としてのキャリアと実際の仕事を理解するうえで、貴重かつ有益な資料となることを期待しております。

最後に、本報告書の執筆にご尽力いただいた駒野氏に対し、改めて深甚なる謝意を表します。

平成 18 年 3 月

財団法人 日本国際問題研究所
所長 友田 錫